THE ULTIMATE RADIO CONTROL SYSTEM
FOR SURFACE BASED MODELLERS

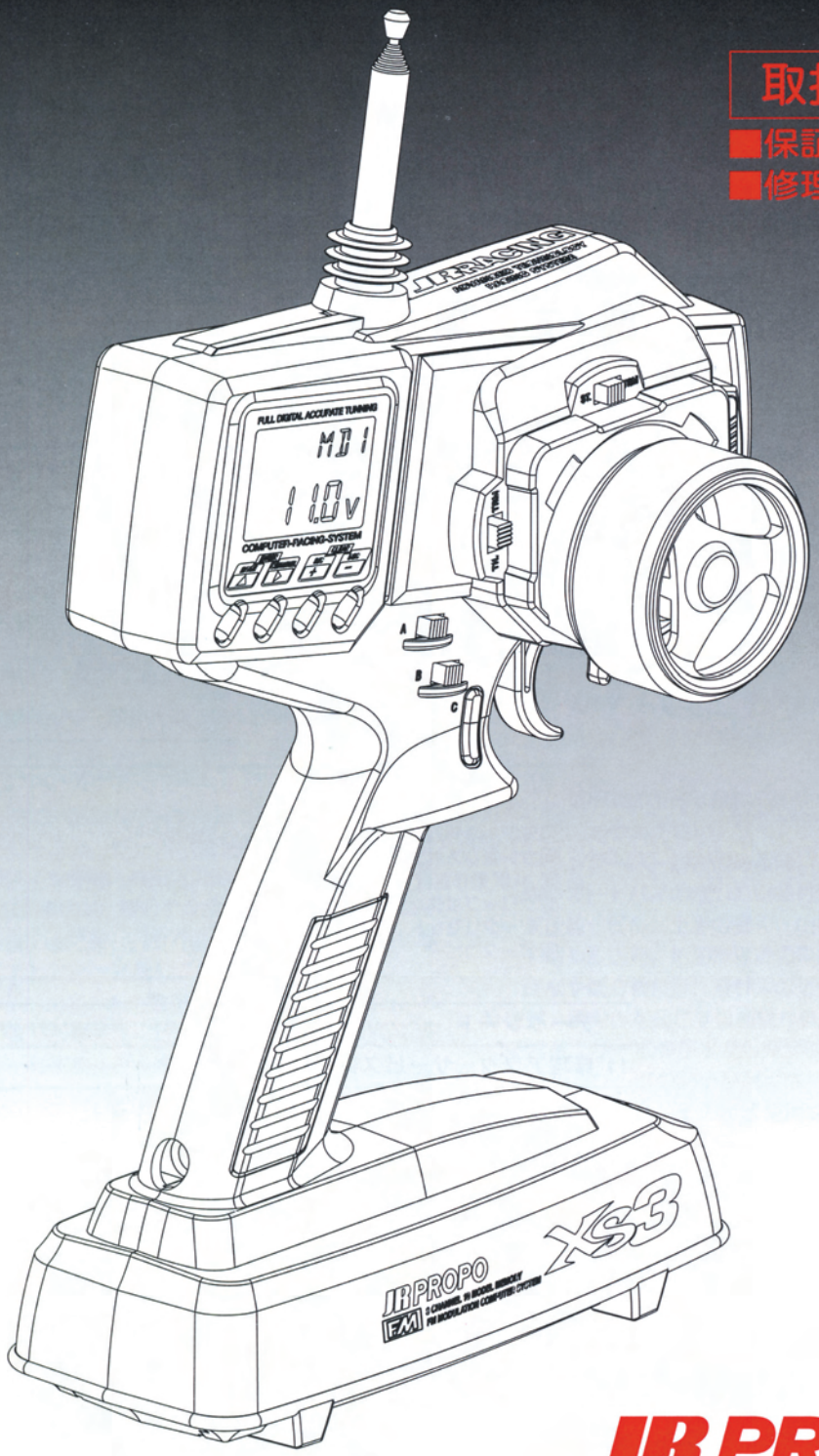
FM 10 MODEL 3 CHANNEL TRANSMITTER

XS3

取扱説明書

■保証書

■修理カード在中



JR PROPO®

お買い上げいただきましてありがとうございます。

プロポは非常に精密な機器であるにもかかわらず、振動を始め過酷な条件で使用されることが多いので、安全第一のためにも、ご使用になる前、十分この説明書をお読み頂き万全を期して頂くようお願いいたします。特に安全のための一般的な注意事項は必ず確認し、実行して下さい。

INDEX

1 安全のための一般的な注意 …… 1
2 特長 …… 2
3 セットの構成と規格 …… 2
4 送信機について …… 3
5 接続及び搭載について …… 5
6 キー入力について …… 7
7 クイックスタートアップ …… 7
8 アラーム及びエラー表示 …… 8
9 入力モード及び機能一覧 …… 9
10 各機能の使用方法 …… 11

ファンクションモード
[1] ステアリング・マスターデュアルレート …… 11
[2] クイックスロットル …… 11
[3] エクスポネンシャル …… 12
[4] エンドポイントアジャスト …… 12
[5] プログラムミキシング …… 13
[6] ラップタイマー …… 13
[7] サブトリム …… 13
[8] リバーススイッチ …… 13

システムモード
[9] モデルセレクト …… 14
[10] モデルネーム …… 14
[11] サーボレスポンス …… 14
[12] AUX 動作選択 …… 14
[13] グリップボタンC選択 …… 14
[14] データリセット …… 14
[15] データコピー …… 14

データシート …… 15
11 修理アフターサービスについて …… 16

(2002年7月)

1 安全のための一般的な注意 必ずお守り下さい

■本プロポセットについて

本製品の改造や、純正部品以外の使用、天災、及び、この項目に書かれている注意事項を守らなかった場合の事故、故障等については、一切責任を負いかねますので、ご了承下さい。また、事故、故障における損害等については、本製品、及び弊社純正製品以外のもの（車体、他社製品、燃料等）は、保証の対象外とさせて頂きますので、ご了承下さい。

本製品で使用する電波は以下の場所、方法での使用が電波法で決められています。

「壁で囲まれた建物の内部において、又は建築物から500メートル以上離れた場所」

「郵政大臣の免許を受けないで、ラジコン模型用に割り当てられない電波を発射してはならない」

「免許を要しない無線局が、郵政省による検査を忌避してはならない」

以上のことに違反した場合、電波法違反となり罰則が適用されることもあります。

- 本製品を海外で使用する場合、使用する国の法令で許可されている必要があります。
- 海外において模型以外の目的で使用する場合、輸出貿易管理令で規制の対象となる場合があります。この場合、同法に基づく輸出許可が必要です。

本説明書の中の下記の表示は、取り扱いの誤りに依って発生する可能性のある危険に関する注意事項です。
安全に関する重要な内容ですので、必ず守って下さい。

⚠

文頭表示の意味　⃠：禁止行為　○：義務行為

■取り扱いについて

御使用になる前に、製品のパーツが揃っているか、また、受信機にスイッチハーネス、サーボ、送受信機に電池を接続し、送受信機の電源スイッチを入れ安定に動作するかをご確認下さい。もし動作しない場合は、電池を点検して下さい。また、ニッカド電池は、お買い上げ後、初めての使用や、長期間使用しなかった場合、充電器で必ず充電してから、御使用下さい。

もし、パーツに、欠品、また動作不良等がありましたら、お手数では御座いますが弊社サービス課まで、ご連絡下さい。安全に御使い頂くために次のことを、必ずお守り下さい。

⚠危険

⃠操縦不能となり危険です。
- ・同一バンド（周波数）との同時走行は絶対にしないで下さい。また、変調方式（ＳＰＣＭ、ＺＰＣＭ、ＰＰＭ、ＡＭ、ＦＭ）が違うか、他社製品である場合でも同一バンド（周波数）との同時走行は絶対にしないで下さい。
- ・雨の日の走行は送受信機内部に水が入り誤動作の原因となりますので、おやめ下さい。止むを得ず御使用になる場合は、防水対策を完全に行って下さい。

⃠発熱、発火、感電、怪我をすることがあります。
分解したり、改造したりしないで下さい。

○不意にエンジンやモーター（電動模型の場合）が高回転となり危険です。電源スイッチをオンにする時は、送信機のスロットルトリガーを最スロー（エンジン、モーターの回転が高回転とならない位置）にし、送信機の電源スイッチ、次に受信機の電源スイッチの順に、オンにして下さい。また、電源をオフにする時は逆に受信機、送信機の順にオフにして下さい。

○怪我をすることがあります。
エンジン（モーター）調整は必ず後ろから動作中の動力に細心の注意をはらって行うようにして下さい。

⃠送信機のスロットルハイでエンジンをかけることは、危険ですので、おやめ下さい。

⚠警告

⃠故障の原因となります。
- ・本プロポセットと、他社製品（交換用クリスタル、サーボジャイロ等）を、組み合わせて使用しないで下さい。
- ・送信機用、受信機用の電池ケースは乾電池専用です。乾電池以外の電池を使用しないで下さい。

⃠誤動作の原因となります。
送信機背面、及び受信機に組み込まれている交換用クリスタルに、強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないで下さい。

○後に、操縦不能となる可能性が有り危険です。
走行中、サーボの動きが鈍いと感じたらすぐ中止して、バッテリー残量、サーボ等の点検を行って下さい。

○操縦可能距離が短くなり危険です。
アンテナは、ねじ込み式です。接触不良が起こらないよう確実に奥までねじ込んで下さい。さらに、全て伸ばした状態で、御使用下さい。また、アンテナは先端の方が出力が低いため走行中、出来るだけ車体の方向にむけないようにして下さい。

⃠以下の場所での走行は操縦不能や事故の可能性があり危険ですので、おやめ下さい。
- ・トランシーバー妨害のある時。
- ・車やオートバイの走っている付近の通過。
- ・高圧線・ビル・土手の近く、山間部等。
- ・ＦＭや放送局、船舶無線等の無線の送信所の近く。
- ・民家や建造物付近、及び人の近く。

⃠突然、誤動作を起こす可能性が有り危険です。
受信機、サーボ等が水没し完全に乾燥後、正常に動作する場合や、サーボの調子が悪くなり、あとで正常な状態に復帰した場合でも、そのまま使用せず、弊社へ点検依頼をして下さい。

⚠注意

○走行前に安全のために次のような点検を行って下さい。
- ・送受信機のバッテリー残量（ニッカド電池の場合、満充電）はあるか。
- ・燃料タンクの燃料漏れにより受信機やサーボ等に燃料がかかっていないか。また、燃料は入っているか。
- ・送信機、受信機のスイッチを入れ、送信機のアンテナを一杯縮めて１０ｍ位は完全に届いているかどうか。
- ・車体の振動ノイズの原因となる、ロッド棒が車体や胴体に

当たったりしていないか、さらに、車体を固定した状態でエンジン（モーター）をハイにして、各舵を動かし完全に動作するかを確認して振動テストを行って下さい。
・初走行は速度を上げず、距離を離さず、安全な地域を選び付近を50ｍ程の距離で走行練習の程度にし、約５分間、2～3回テストして異常の無いことを確認してから操縦を行って下さい。

○万が一に備え、「ラジコン保険」の加入をおすすめします。

■ニッカド電池、及び、充電器について

漏液、破裂、発熱の恐れがありますので、次の事をお守り下さい。

⚠危険

○充電器は日本国内ＡＣ100 Ｖのコンセントでのみ御使用下さい。
⊘充電は必ずJR専用充電器を使用し、急速充電は行わないで下さい。
⊘（＋）と（－）を逆にしての使用や、充電をしないで下さい。
⊘火の中に投下したり、加熱しないで下さい。
⊘（＋）と（－）を針金等の金属で接続しないで下さい。
⊘分解、改造、半田付け等をしないで下さい。
○電池内部の液が目に入った時は、失明の恐れがありますので、こすらずに、きれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けて下さい。

⚠警告

○故障の原因となります。
ニッカド電池は、ＪＲ純正ニッカド電池を御使用ください。
○所定の充電時間を超えた場合には、充電を止めて下さい。
⊘水や海水につけたり濡らさないで下さい。
⊘外装チューブ、リード線や、コネクターにキズをつけたり、はがしたりしないで下さい。
○漏液が皮膚や衣服に付着した場合は、皮膚に障害を起こす恐れがありますので、直ちにきれいな水で洗い流して下さい。
○操縦不能の原因になります。
ニッカド電池のパックは、数本のニッカド電池の組み合わせにより構成されています。よってバッテリーチェッカー等で、確認を行い、パック内のニッカド電池が、全て正常であることを確認下さい。また、ニッカド電池の残量をバッテリーチェッカー等のテスターで正確に知ることは出来ません。バッテリーチェッカーと、充電時間、使用時間等で総合的に判断して下さい。

⚠注意

⊘高温、多湿、ほこりの多いところには保管しないで下さい。
○幼児の手の届かないところに保管して下さい。
⊘冷えたまま（0℃以下）で充電しないで下さい。
⊘古くなった電池をゴミ箱等にすてないで下さい。

2 特　長

1 送信機　NET-V230 COMPUTER

●充分な機能を持った３チャンネル送信機です。
●見やすいカスタム液晶ディスプレイと操作性の優れた入力キーにより 理解しやすく設定の容易なコンピュータ方式を採用。
●10台分のデータをメモリーできます。
●リバーススイッチ、エンドポイント・アジャスト、サブトリムが全てのチャンネルについています。
●50ラップ分のタイムが記憶可能なラップタイマーを内臓。
●FPPM（ファーストPPM）を新開発し搭載。
※FPPMモードはデジタルサーボでしか使用できません。
●モデル間データコピー機能搭載
●R-1のみに搭載されていたクイックスロットル機能の採用
●あらゆる用途で活用できるプログラムミキシングを新規装備

2 受信機　R200 PPM

●FM－NEW ABC＆W方式により、混変調、相互変調妨害を受けない高感度受信機です。
●超ナローバンド方式を採用。隣接妨害を受けません。
※3ch（AUXチャンネル）をお使いになりたい方は、別売のRS300（FM3チャンネル受信機）をお求め下さい。詳細は受信機の取扱説明書をお読み下さい。

3 セットの構成と規格

■送信機■

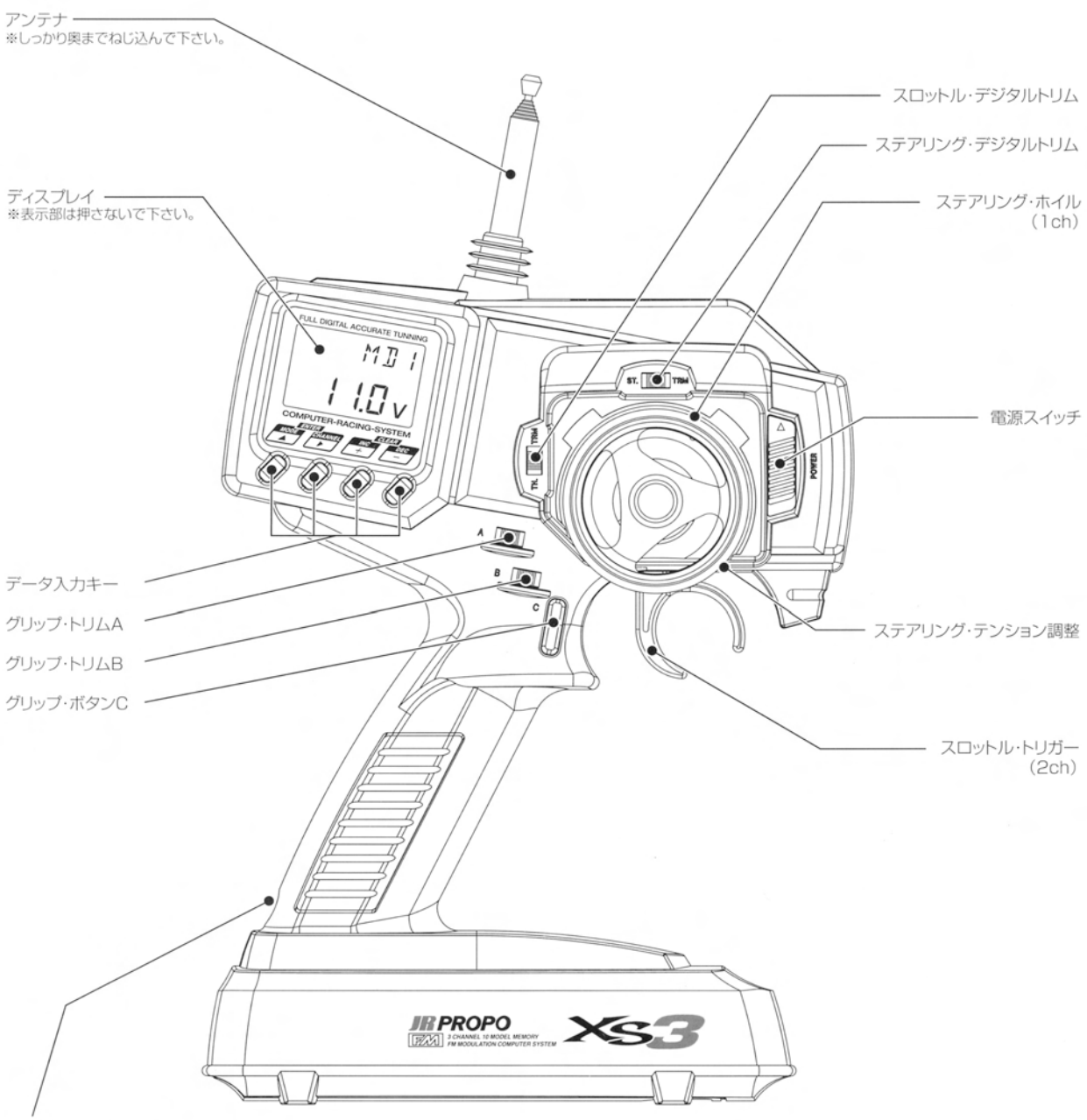
品　　番	NET－V230
操作方式	３チャンネル コンピューターミキシングシステム
送信周波数	40MHz　8バンド または27MHz　12バンド
変調方式	PPM（FM）
終段入力電力	約1W
電　　源	乾電池またはニッカド電池（別売）
消費電力	200mA
ニュートラル	1.5ms

■受信機■

品　　番	R200
受信方式	FM２チャンネル シングルコンバージョン NEW ABC＆W方式 PPM
受信周波数	40MHz　8バンド または27MHz　12バンド
感　　度	5μV／m（完動時）
選　択　度	8KHz／50dB
重　　量	19g
寸　　法	17×26×37mm

4 送信機について

(1)各部の名称及び機能



⚠ 警告

異常発熱、破裂をおこし危険です。
乾電池は絶対に充電しないで下さい。

(2)裏面各部の名称及び機能

ニッカド電池

専用ニッカド電池は8N600S（定価5,000円）を、お求め下さい。

ステアリングテンション調整

精密ドライバー等の細いプラスドライバーで穴の中のビスを回して調整します。
右（時計方向）に回すとテンションが強くなります。

電池カバー

電池交換の時は、押してスライドさせて開きます。電池ケースは単三乾電池を８本入れて下さい。

⚠注意

電池ケースは乾電池専用です。バラのニッカド電池等を入れないで下さい。またアルカリ電池のご使用を、おすすめします。

■ラジコン専用電波使用区分

27MHz用送信機は下記の12周波数、40MHz用送信機は下記の8周波数に限り、クリスタル交換によるバンド変更が出来ます。

⚠注意

なお、27MHz帯用クリスタルは、40MHz用送信機には使用出来ません、また、その逆も出来ませんので、ご注意下さい。

27MHz

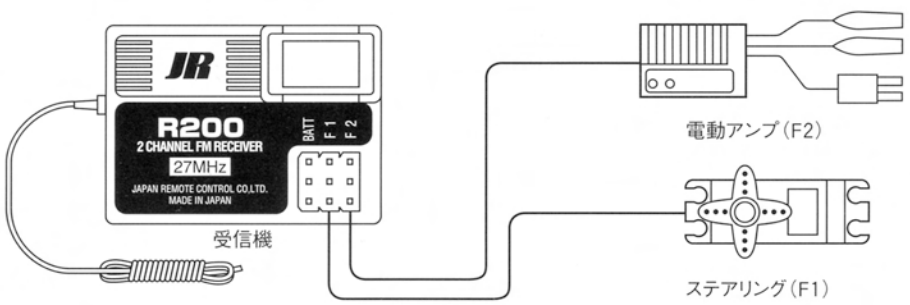
ナローバンド		周波数(MHz)	旧バンド
01	地上用及び水上用27MHz	26.975	
02		26.995	①
03		27.025	
04		27.045	②
05		27.075	
06		27.095	③
07		27.125	
08		27.145	④
09		27.175	
10		27.195	⑤
11		27.225	
12		27.255	⑥

40MHz

バンド		周波数(MHz)
61	地上用及び水上用40MHz	40.610
63		40.630
65		40.650
67		40.670
69		40.690
71		40.710
73		40.730
75		40.750

5 接続及び搭載について

■電動カー（アンプ仕様）の場合　※電動アンプは別売です。



※モーターへの接続及び調整はアンプの説明書に従って下さい。

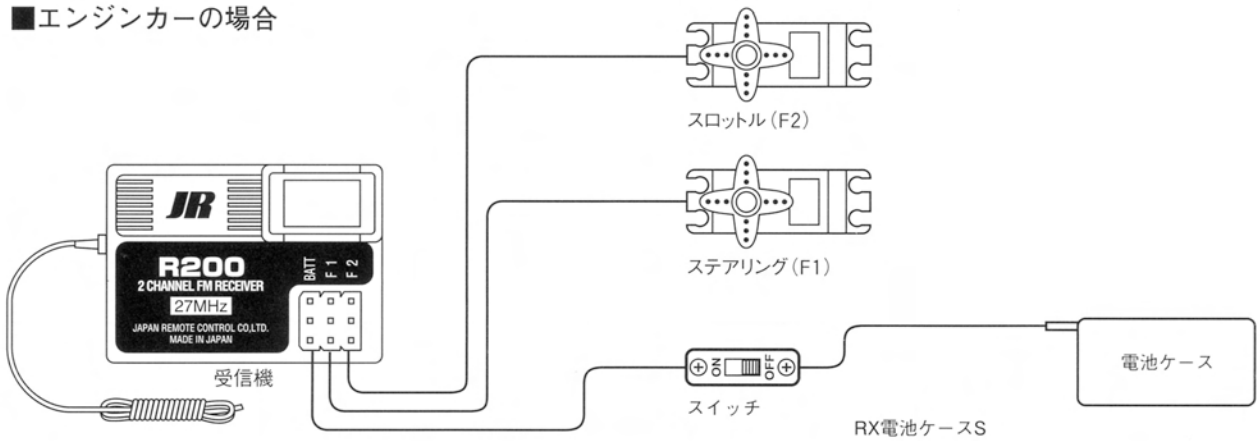
※電動カーについての注意

●高周波アンプの場合、アンプ自体もノイズを出しますが、モーターにノイズが多いと増幅されますので必ずモーターには指定のノイズキラーコンデサーを3ヶ所付けて下さい。

●アンテナはアンテナパイプに導く途中、金属シャーシやカーボンプレートに密着させてはいけません。必ず10mm以上はなして下さい。

●モーターコードやNi－cdのコードとアンテナはたばねたり、交錯してはいけません。なるべくはなして下さい。電流の多く流れる線はそれだけノイズも多いと考えて下さい。

■エンジンカーの場合



※エンジンカーについての注意

●初走行後に必ずサーボを外して、ケースの横や下面にメカプレートやシャーシと接触した傷跡がないかよくチェックして下さい。接触したままだとすぐに寿命がきます

●アンテナは受信機のところから必ず立てて下さい。
金属シャーシやカーボンプレートに密着させるのは感度低下をまねくので絶対にやめて下さい。

●サーボのギヤー交換時、必ず全ての破片をとりのぞいて下さい。異物（砂など）が残っているとギヤーにはさまり再びギヤー欠けを起こします。

●受信機側のクリスタルはクラッシュ等で周波数ズレを起こす事があります、劣化していきますので定期的に交換をおすすめします。

●スイッチもメカプレートに直接取り付けることが多いので振動で早く劣化します。早めの交換がよいでしょう。

●受信機やサーボに排気がかかると内部のオイルが入りリークの原因になりますので搭載方向に注意しましょう。

■搭載について

●サーボのリンケージが終わったら、相互に当ったり、車体に接触したりせずスムーズにサーボが動くことを確認して下さい。

●このプロポは搭載時に多くの中継コネクター等を使用する場合もあります。この時、コネクターもラバー等に包んで固定するようにしましょう。絶対にブラブラさせたままにしない様にして下さい。

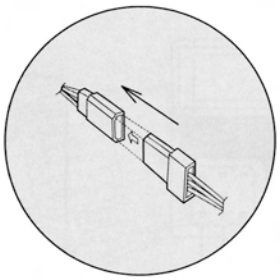
●スイッチハーネスを車体に取り付ける時、スイッチのストロークが完全に動く様に充分注意して下さい。

●サーボはアブソーバゴムを耳の部分にはめ込み、その後でビス止めして下さい。

●サーボのニュートラルの調整は出力軸のスプラインを利用して行います。この時、ホーンを十字型や丸型は90°ずつ、また一文字型は180°ずつずらして入れて見て下さい。丁度、合う所が見つかります。

⚠注意

サーボのギヤやモーターへの注油、防水スプレー等の使用は絶対しないで下さい。



⚠注意

コネクターは極性を間違えない様、コーナーを削ってありますのでスムーズに差し込めます。また、差し込む時にコードの色合わせをしていただければ、より安全です。

6 キー入力について

●この説明書では、キー表示は下図のようになっています。
●入力が有効なときはクリック音を発生し、入力の確認となります。
●プラス、マイナスキーは、オートリピート機能（押し続けると早送りできる）をもっています。
●各機能でのパーセント設定時等で、プラス、マイナスキー入力に対し、表示の値が増減しない（クリック音のみ）時があります。これは、少数点以下を、表示していないためで、内部数値は変化しています。
●調整時、ステアリングホイル又はスロットルトリガーを操作してチャンネルの各方向（左、右、前進、ブレーキ）を決定しながらキー入力をする場合があります。その場合、ニュートラルでは方向が安定しないときがありますので、少しホイル又はトリガーを操作しながらキー入力をするようにして下さい。

■デジタル・トリムについて

この送信機には、ステアリング・ホイルの上、左、及びグリップ部に２つの合計４個のデジタル・トリム（以下D. T. という）が、あります。
各D. T. は、トリムレバーを左右（上下）に倒すことで各値の調整ができますが、いづれにもオートリピート機能があります。
オートリピート機能は、トリムレバーを調整したい側に倒したまま押し続けると、早送りで、各値を連続的に増減できます。
各トリムの機能については、ダイレクト・トリムモード（P.12）をお読み下さい。

7 クイックスタートアップ

ここでは電動RCカーを例にして基本的な送信機のセットアップ手順を紹介します。
機能の詳しい内容は各項目をお読み下さい。また、電動アンプ等は別途御用意して下さい。

1 送信機及び受信機動作確認

送信機に電池を入れます。受信機側は、サーボ及び電動アンプを結線し、充電済みのニッカドバッテリーを接続します。
送受信機のクリスタルが同一バンドの物か確認します。同一バンドを周りで使っていないことを確認して送信機の電源を[MODE]キーを押しながら電源を入れます。(システムモードに入る)[MODE]キーを5回押し、データリセットモードで[CLEAR]キーを押し、データのリセットを行います。この状態で一度電源を切ります。
次に、送信機側の電源を入れ、続いてアンプ(受信機)側も電源を入れます。ステアリングホイルを動かしてみてサーボが動くか確認します。ホイルから手を離した状態(ホイルセンター)のサーボの位置がニュートラル位置です。この状態のままアンプの電源を切り、続いて送信機の電源も切ります。受信機側の結線をはずします。

2 車体への積み込みとリンケージ

サーボを先ほどの状態のままステアリングのリンケージに取り付けます。車体への積み込み方法は、車体の説明書をお読み下さい。
また、受信機、アンプを車体へ積み込み、結線を行います。

3 送信機と車体とのマッチング

車体をモーターが回っても動かないように浮かせた状態にしておきます。送信機の電源、アンプ(受信機)の電源を入れます。

↓

電動アンプの設定を行います。電動アンプの取扱説明書に添って設定して下さい。

↓

ステアリング・ホイルを回した時、タイヤの向く方向が同一か確認します。逆の場合はリバーススイッチで反転させます。 リバーススイッチ (P.16)

↓

低速で車を走らせてみてニュートラル位置で真っ直ぐ走るか確認します。左右にずれていく場合は、サブトリム(STS)を調整します。 サブトリム (P.16)

↓

ステアリング・ホイルを一杯まで回した時に無理に力がかかった状態(オーバーリンケージ)にならないように調整します。まず、グリップ・トリムBを右に倒しステアリング・デュアルレート(STG)を100%(最大値)にします。次に、ステアリング・マスターデュアルレート(STM)を調整しホイルを左右一杯まで回した時に、ロックしない状態にします。 ステアリング・デュアルレート (P.12)
ステアリング・マスターデュアルレート (P.13)

↓

ホイルを一杯に回しながら低速で走らせてみて左右の最小回転半径が 同じになるように調整します。
エンドポイントアジャスト(EPA)で回転半径の小さい方の向きを大きい方に合わせます。(設定値を小さくする) エンドポイントアジャスト (P.14)

↓

通常の速度で走らせてみて、真っ直ぐ走らない場合は、ホイルの上にあるステアリング・トリム(STC)で合わせます。 ステアリング・トリム (P.12)

↓

コースレイアウトやコンディションによりホイルを回した時曲がりすぎる場合は、グリップ・トリムBのステアリング・デュアルレート(STG)を減らします。

以上で簡単な調整は終了です。けがをしたりしないように安全には充分注意して下さい。この送信機には、他にもたくさんの機能が付いています。充分理解した上でご使用下さい。

8 アラーム及びエラー表示

1 バッテリーアラーム及び表示

送信機の電池電圧が9.0V以下になると、ディスプレイ中に"BAT"が点滅を始め、アラーム音を発生します。走行中、アラーム音を確認した場合は早めに停止させて下さい。また、より長い時間、ご使用頂くためにも、乾電池の場合は、アルカリ乾電池のご使用を、おすすめいたします。

2 バックアップエラー表示

各設定データは、内蔵のリチウム電池によりバックアップされています。このリチウム電池の寿命は約5年と考えて下さい。電池の寿命もしくは、何らかの原因により設定データが消えてしまった場合、送信機の電源SWオンで、

と表示され、同時にアラーム音を発生します。

※何の表示も出ず、アラーム音も出ない場合もあります。
この様な場合は送信機の電池電圧が低下していることがありますので、確かめてから判断して下さい。

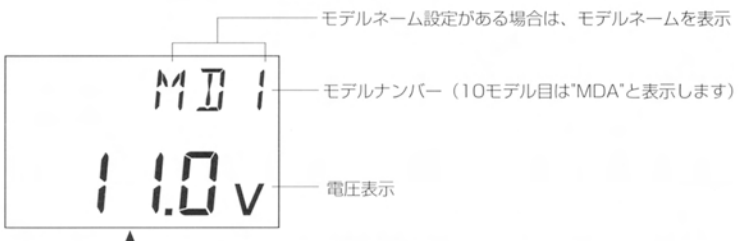
この場合は、リチウム電池の交換もしくは何らかの修理が必要となりますので、当社サービス課へお送り下さい。

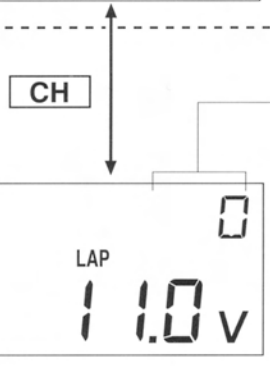
9 入力モード及び機能一覧

1 通常表示

電源スイッチをオンにすると、画面は次のような通常表示となります。

●通常表示





●タイマー表示（ラップタイマー設定時のみ）

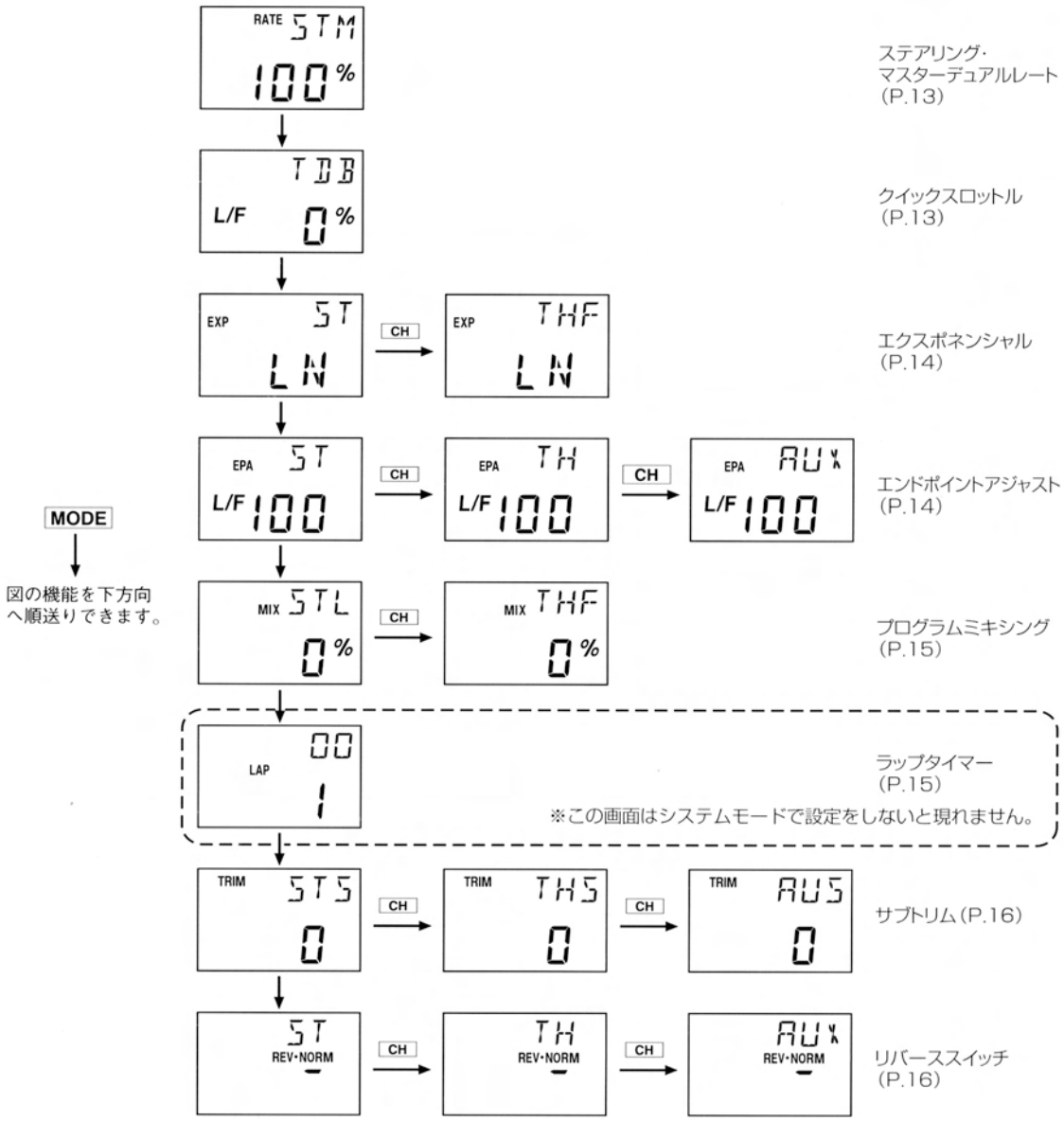
トータルタイム表示 0秒から999秒を表示
ラップタイマーを設定（グリップボタンC選択を参照）した場合、左図の画面に切換ることができます。また、通常表示時も"LAP"文字が出るようになります。
タイマーは CLEAR キーで停止し、停止状態から再度 CLEAR キーを押すと全クリアーすることができます。
タイマー動作中は"LAP"表示が点滅します。また、999秒で自動的に停止します。
タイマーはシステムモード以外の時、グリップ・ボタンCでスタートし誤カウント防止の為3秒以上はなれたラップを記録することができます。
ここでの表示は、タイマーが動作し始めてからのトータルタイム表示のみです。個々のラップは、ファンクションモードのラップタイマー画面で確認してください。停止状態から再スタート時は、0秒からのスタートとなりますが、個々のラップタイムは保存されています。

2 ファンクションモード

通常表示から MODE キー又は ENTER キーを押すと、ファンクションモードとなります。
このモードでは各種の機能を MODE キーにより順送りで選択し、サーボの動作を見ながら設定することが出来ます。

各機能の中でチャンネルや付加機能を切換る必要がある場合は、CH キーを押します。
ENTER キーを押すことにより通常表示に戻ります。

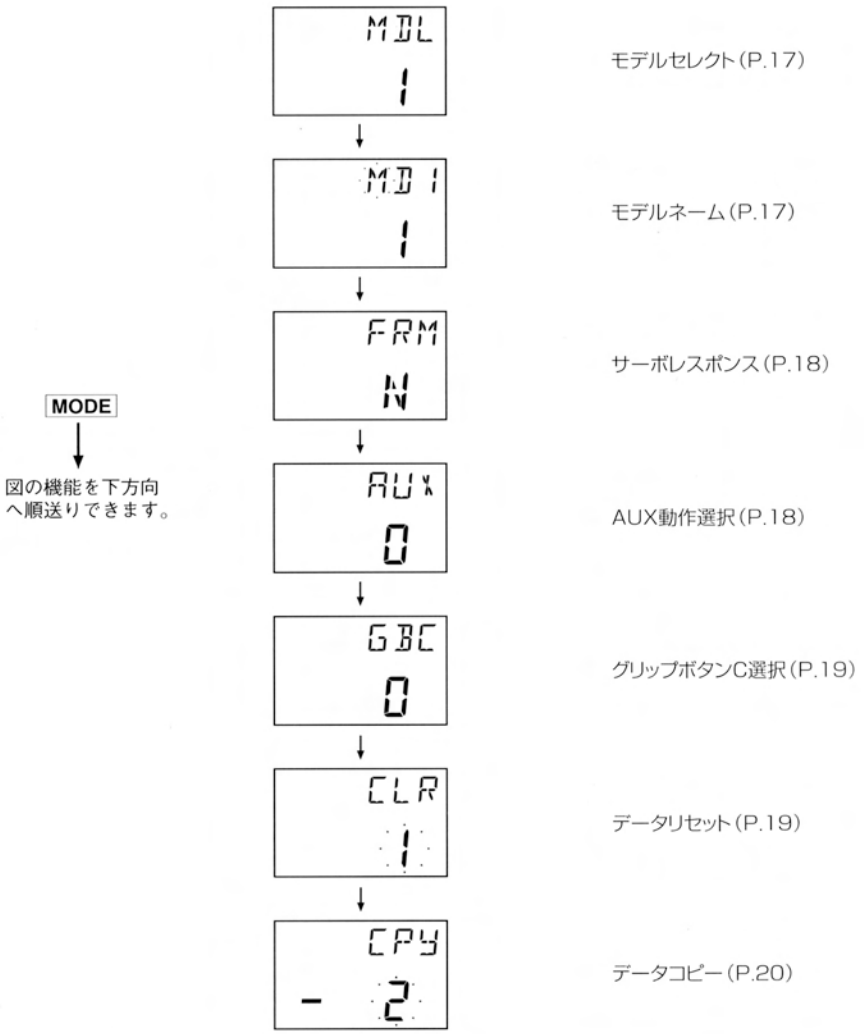
<ファンクションモード機能>



3 システムモード　※このモードでは電波は出ません。

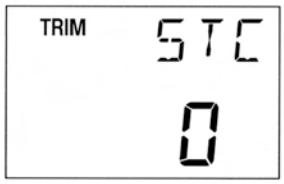
MODE キー又は ENTER キーを押しながら電源スイッチをオフからオンにすると、システムモードとなります。このモードでは次の図に示す機能をファンクションモード同様 MODE キーにより順送りで選ぶことができます。 ENTER キーを押すことにより通常表示に、さらに MODE キー又は ENTER キーを押すことによりファンクションモードに移ることが出来ます。ただし、電源スイッチをオフにし、もう一度オンにするまで電波は出ません。このシステムモードが有ることにより電波を出さずに全ての設定ができます。これは、当社R-1でのディスプレイスイッチと同等の機能と言えます。

<システムモード機能>



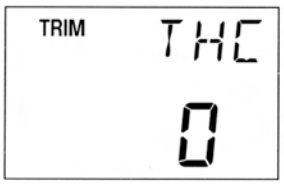
4 ダイレクト・トリムモード

全てのデジタルトリムにダイレクト機能があります。
この機能は、それぞれの調整を素早くかつ正確に行うため、各レバー操作時に、その調整中の値が瞬時に画面に表示されるものです。
また、この表示は、ある一定時間（約2秒）そのレバー操作を行わなかった場合、自動的に元の表示画面に復帰します。
なお、このダイレクト表示中、即座に元の表示に戻したい時は、MODE キーまたは、CH キーを押して下さい。
さらに、このダイレクト・トリムモードの各表示中に CLEAR 入力で初期値にプリセットすることができます。



ステアリング・トリム

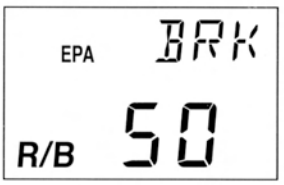
L30～0～R30（左右 約12°）
この表示が出ているときに CLEAR キーを押すとニュートラル（＝0）に戻ります。
本トリムはセンタートリムを採用している為エンドポイントに影響しません。



スロットル・トリム

F60～0～B60（前進・ブレーキ 約24°）
この表示が出ているときに CLEAR キーを押すとニュートラル（＝0）に戻ります。
本トリムはセンタートリムを採用している為エンドポイントに影響しません。

★



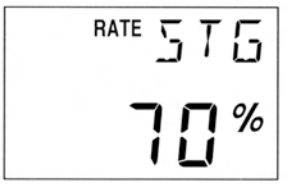
グリップ・トリムA：スロットル・ブレーキ・エンドポイント

左方向(減少) ～ (増加)右方向
走行中のブレーキ量を調整します。
エンドポイントアジャスト(P.14)で設定されたスロットルブレーキ量を最大値として調整(0～100%)を行います。
表示は、エンドポイントアジャストでの調整量と、ここでの調整量から計算された値となります。
この表示が出ているときにCLEAR キーを押すとここでの調整量を50%とした時の値となります。
グリップ・トリムAが他の機能に切換った場合はエンドポイントアジャストで設定されたブレーキ量となります。

★

グリップ・トリムA：AUXリニア動作

※この機能は3ch受信機でないと使用できません。
－125～0～125
システムモードのAUX動作選択で"LN"にした場合、グリップトリムAはこのモードになります。
AUXチャンネルのサーボをエンドポイントアジャスト（P.14）で設定された値の間を直線的に動かすことができます。
この表示が出ているときにCLEAR キーを押すとニュートラル（＝0）に戻ります。



グリップ・トリムB：ステアリング・デュアルレート

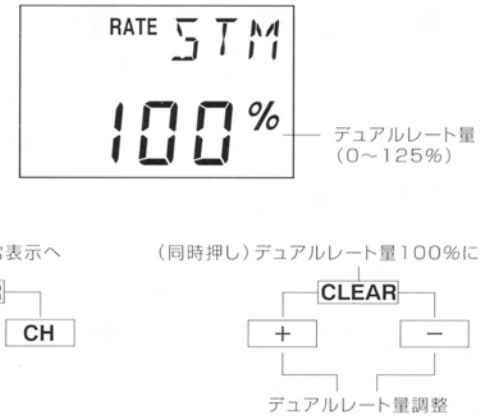
左方向（減少）～（増加）右方向
ステアリングを一杯に切った時の舵角を左右同時に調整します。コースレイアウトやコンディションに合わせて走らせながら調整します。
ステアリング・マスターデュアルレート（P.13）で設定された値を基準に調整（40～100%）を行います。表示は、2つのレート量を計算した値となります。
この表示が出ているときにCLEAR キーを押すとここでの調整量を70%とした時の値となります。
ステアリング・マスターデュアルレート、ステアリング・エンドポイントの調整時は、100%（最大値）にして下さい。

★グリップ・トリムAについて

グリップ・トリムAは、システム設定モードのAUX動作選択（P.18）とグリップ・ボタンC選択（P.19）の値によりスロットル・ブレーキ・エンドポイント、AUXリニア動作、AUXツーポイント動作の3通りの機能が切換ります。AUXツーポイント動作時は表示画面はありません。

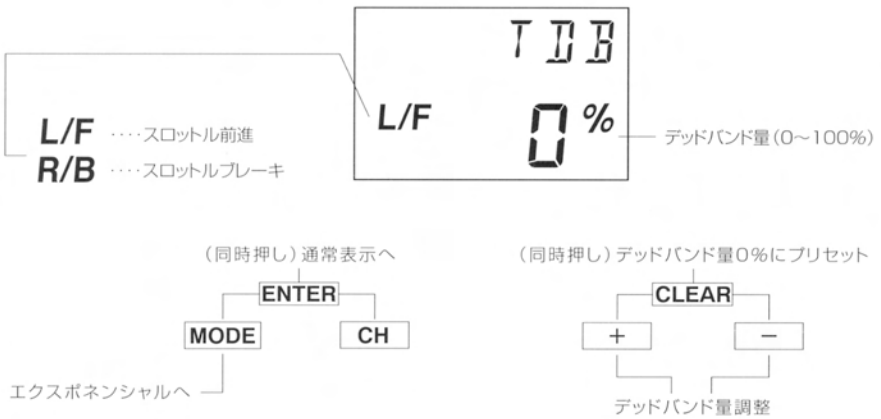
10 各機能の使用方法

1 ステアリング・マスターデュアルレート<STEERING RATE MASTER>



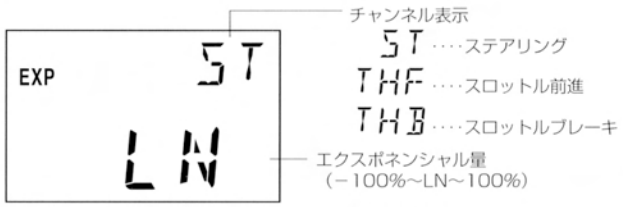
ステアリングホイルを一杯に回した時のサーボの舵角を左右同時に調整します。0～125%の調整が可能です。調整は、サブトリムを合わせ、グリップ・トリムBのデュアルレート量を100% (最大値) にした後に、左右共ステアリングリンケージがロックしないよう、マスターデュアルレート量を調整します。走行中のデュアルレート量はコースレイアウトやコンディションに合わせて、グリップ・トリムBのステアリング・デュアルレートで走らせながら調整して下さい。

2 クイックスロットル<THROTTLE DEADBAND>



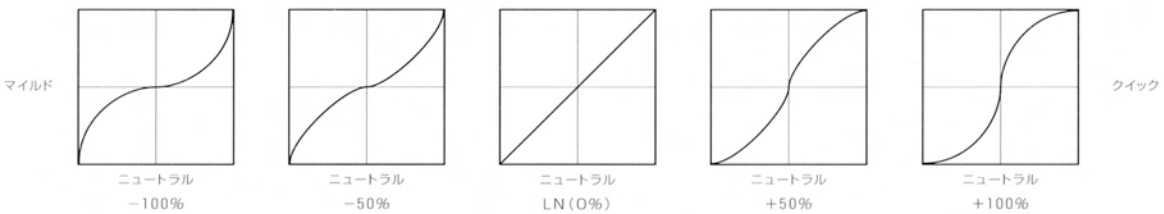
スロットル・トリガー操作に対する、ニュートラル付近のレスポンス (反応) を上げるミキシングです。リンケージのガタ取り等にお使いください。前進、ブレーキ側の切換は、トリガー位置により変わります。前進、ブレーキ側、各別々に標準舵角に対し0～100%の設定が可能です。100%にすると、ニュートラルを境にして、スイッチ的な動作となります。また、ここでの設定は、スロットル・エンドポイントの設定値が100%となります。

3 エクスポネンシャル<EXPONENTIAL>

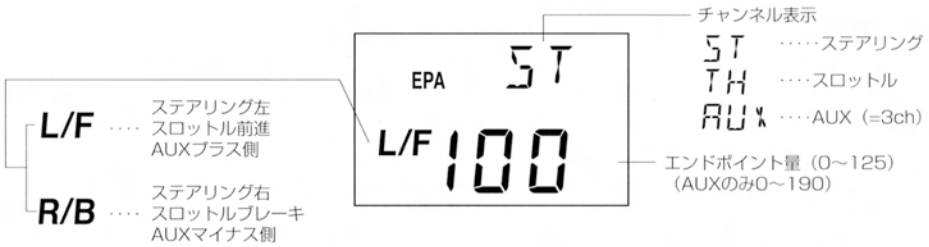


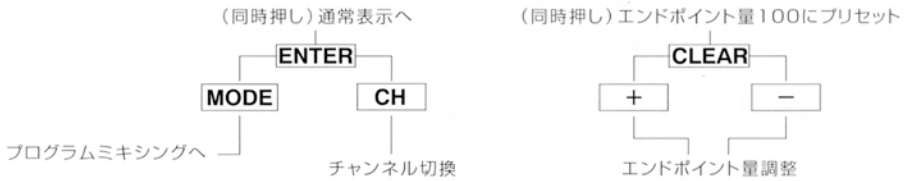
ステアリングホイル又はトリガーの操作に対するサーボの動きを対数曲線的にし、最大舵角を変えずにニュートラル付近の動きをマイルド [−] にしたり、クイック [+] にしたりする機能です。

スロットルの前進・ブレーキ側の切換はトリガーの位置により変わります。また、それぞれ個別に調整します。



4 エンドポイントアジャスト<END-POINT ADJUSTMENT>





各チャンネルのサーボ動作(ニュートラル基準)の最大舵角の調整です。ステアリングの左右最大舵角、スロットルの前進側、ブレーキ側の動作量、AUXの動作量を調整します。各チャンネル共、最大動作時にリンケージがロックしないように調整してください。ステアリング、スロットルはそれぞれ0〜125(0〜約50°)の範囲で調整できます。標準値は100で、これが通常舵角です。表示上の数値は、そのホイルやトリガー位置によって切換り数値の調整ができます。この設定を行う前に、サブトリムの調整を終えておいて下さい。サブトリムを動かすと、設定がずれます。

ステアリング・エンドポイントを設定するときは、グリップ・トリムBのデュアルレート量を100%(最大値)にした状態で走行させ左右の最小回転半径が同一になるように設定します。

スロットル・エンドポイントは、キャブレターのストローク調整、電動アンプのハイポイント調整、最大ブレーキ量の調整をおこないます。電動アンプの調整は通常前進、ブレーキ側共100%でアンプ側で調整します。

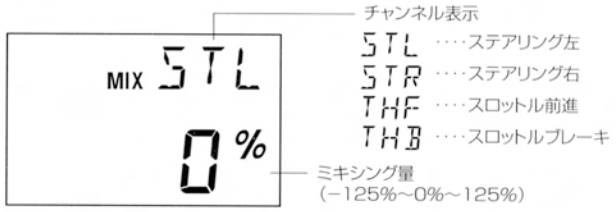
走行中のブレーキ量(エンジンカー)は、グリップ・トリムAで調整します。

●AUXチャンネルについて　※この機能は3ch受信機でないと使用できません。

AUXチャンネルは0〜190の設定が可能です。AUXチャンネルのプラス側、マイナス側の切換は、システムモードのAUX動作で"2P"又は"LN"を選択し、割当てられたキーで方向を切換えます。

5 プログラムミキシング<TO AUX CHANNEL MIXING>

※この機能は3ch受信機でないと使用できません。

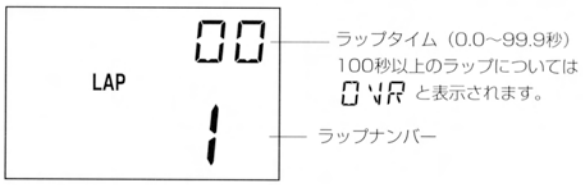


ステアリング及びトリガーの操作を、AUXチャンネルにミキシングをかけます。ステアリングのミキシングは4WS等に、スロットルのミキシングは、フロント・リアブレーキの独立制御等に使用することができます。ステアリングの左右切換はホイルの位置で、スロットルの前進・ブレーキ側の切換はトリガーの位置により変わります。

また、それぞれ独立していますので個別に調整します。ミキシング量をマイナス側にすると操作に対しAUXチャンネルは、逆の動きとなります。

ミキシングを使用しないときは、かならず0%にしておいて下さい。

6 ラップタイマー<LAP TIME RECORD>



本送信機はラップタイマーを装備しています。この画面は、グリップボタンC選択を"LA"(ラップ)にしたとき現れます。ラップは50ラップまで測定できます。50を超えると1に戻り前の記録に上書きされます。

ラップタイマーは、ボタンCでスタートし、タイマー動作中は"LAP"文字が点滅します。次にボタンCを押すとラップを記録しラップタイムとラップナンバーを表示します。ラップの最小カウント時間は3秒でこれ以下のラップはカウントできません。また、100秒以上のラップは"OVR"と表示されます。タイマー動作中はラップナンバーの切換はできません。

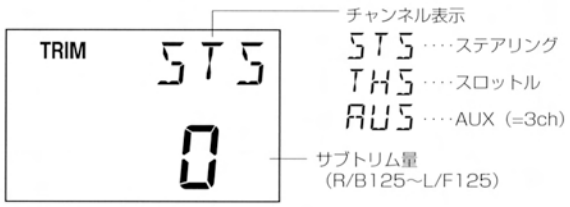
タイマーを停止するには CLEAR キーを押します。停止中は"LAP"文字は点灯したままとなります。この状態から再びラップを計測することができますがラップナンバーは前回記録した続きからとなります。

ラップタイムの確認は、タイマー停止状態のときプラス/マイナスキーで見たいラップナンバーに合わせます。

ラップナンバーに"−"(マイナス)表示が付いた物は前回以前のラップの記録です。

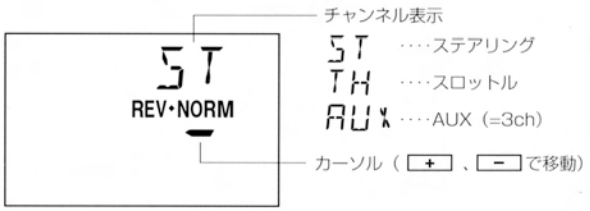
ラップタイマーのクリアは、タイマー停止状態から再度 CLEAR キーを押して下さい。ただし記録も全てクリアされてしまいますので注意して下さい。

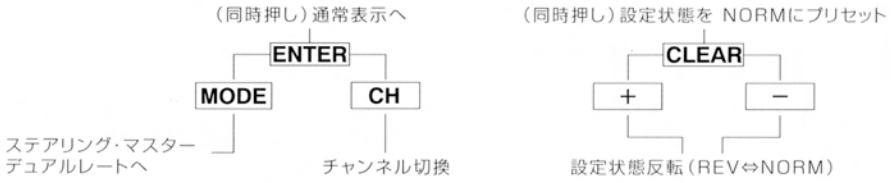
7 サブトリム<SUB-TRIM ADJUSTMENT>



各チャンネル個々のサーボの補助的なトリムです。調整範囲はR/B125～L/F125でサーボで各方向約25°です。
しかし、あまり大きく動かすとサーボの最大舵角に影響がでますので、できる限り調整は小幅にして下さい。
調整の前に、ダイレクトトリムを"0"に合わせて下さい。

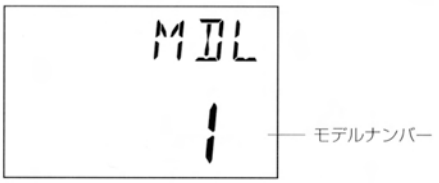
8 リバーススイッチ<REVERSING SWITCH>

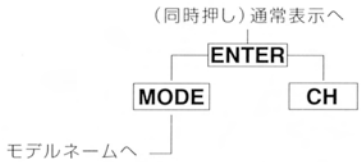




サーボの動作方向を変える機能です。全チャンネル設定可能です。

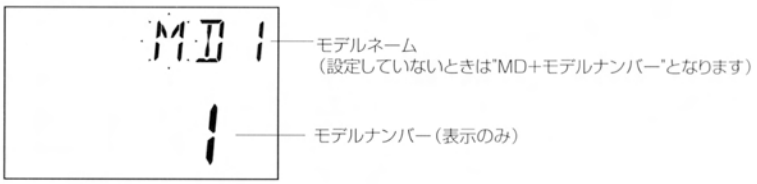
9 モデルセレクト<MODEL SELECT>　　システム設定モード

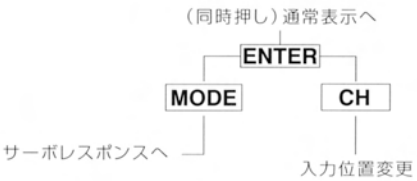


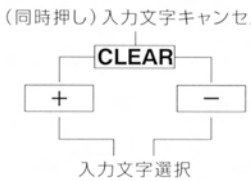


この送信機は、全ての設定を 10 モデル分記憶しておくことができます。設定又は、使用するモデルナンバーに切換ます。モデルネームを設定してもこの画面には現れません。

10 モデルネーム<MODEL NAME>　　システム設定モード



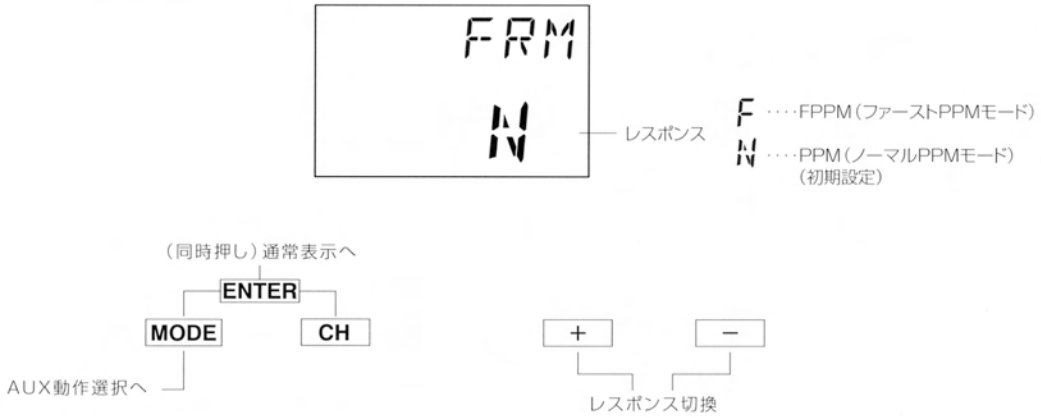




各モデル毎にモデル名を入力できます。点滅中の文字が入力可能な文字で、この点滅位置は、CH キーで切換ます。

また、入力したモデル名は通常表示中に現れます。文字数は３文字固定で空白は有りません。

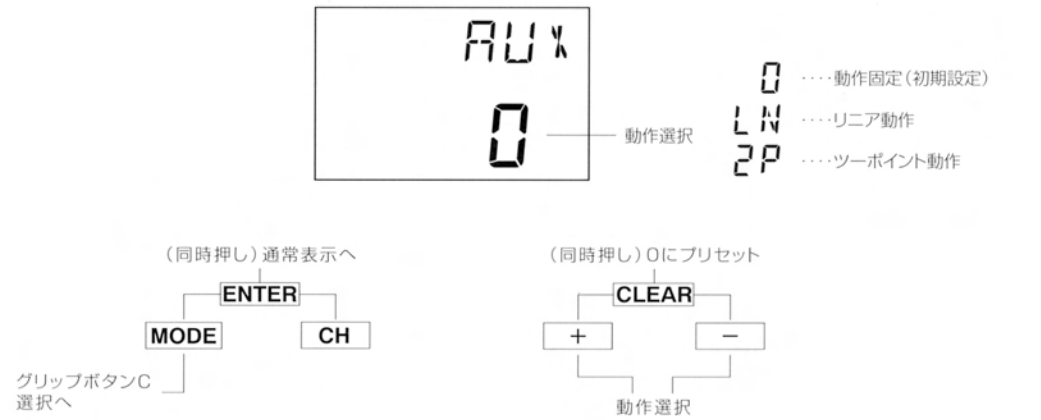
11 サーボレスポンス<FRAME RATE>　システム設定モード



この送信機は、サーボのレスポンスを上げるため新開発のFPPM（ファーストPPM）モードが搭載されています。このモードは、通常のPPMモードに比べ 約30%速い周期でサーボを制御することができサーボのレスポンスが上がります。ただし、FPPMモードを選択する場合はデジタルサーボをお使い下さい。

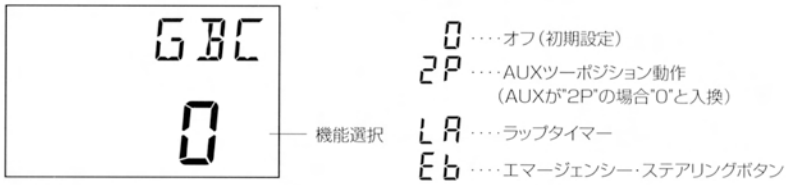
12 AUX動作選択<AUX CHANNEL FUNCTION>　システム設定モード

※この機能は 3ch 受信機でないと使用できません。



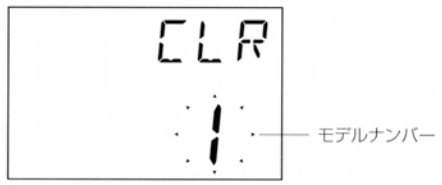
AUX チャンネルの動作を選択します。
"0" は動作しないのではなく、設定値に固定されます。設定は "LN" 又は "2P" で行うことができます。初期値はニュートラルです。
"LN"にした場合は、グリップトリムAにその動作が割り当てられます。－ 125 ～ 125 の値で調整できます。
"2P"は、スイッチ的な動作となり、エンドポイント値の往復動作となります。このモードを選択した場合、グリップボタンCが "0" の場合は自動的にグリップボタンC選択は "2P" となりボタンCに割当てられます。グリップボタンCが"LA"又は"Eb"の場合は、グリップトリムAに強制的に割当てられます。ただし、この場合はグリップトリムAを操作しても画面は切換りません。

13 グリップボタンC選択<GRIP BUTTON C ASSIGN>　システム設定モード



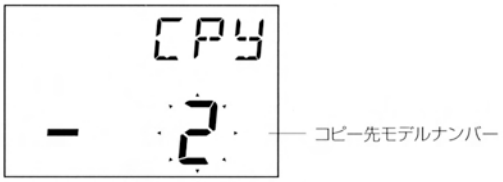
グリップ・ボタンCの動作を割り当てます。初期値は"0"で押しても何も反応しません。(機能停止)
AUX動作選択で"2P"を選択した場合は、"0"の代りに"2P"が割り当てられます。押すごとにAUXチャンネルの動作は、エンドポイントで設定された値を往復します。
"LA"(ラップタイマー)を選択すると、ラップタイマーが使用できるようになり、ラップタイマーのスタート、ラップのカウントを行います。また、通常画面、ファンクションモードにタイマー画面が追加されます。
"Eb"(エマージェンシー・ステアリングボタン)は、グリップトリムBで設定したデュアルレート量をボタンを押している間100%(最大値)にするものです。緊急時にステアリングの舵角を増やし回避できるようにします。

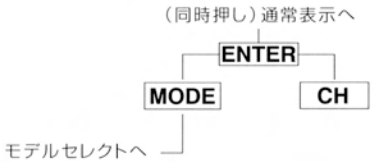
14 データリセット<CREAR MODEL DATA>　システム設定モード

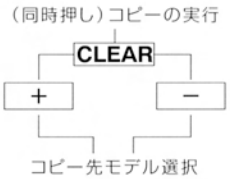


現在のモデルの全ての設定データを、初期状態にプリセットする機能です。他のモデルのデータは影響されません。大切なデータを消さないように、必ずモデルナンバーを確認し実行してください。モデルナンバーは、モデルセレクトで設定したものとなります。この画面でのモデル切換はできません。クリアキーを押しデータがリセットされると、モデルナンバーの点滅が停止します。

15 データコピー<COPY MODEL DATA>　　システム設定モード







現在のモデルの全ての設定データを、他のモデルへ転送するものです。転送される側の前のモデルデータは、コピー機能を実行すると転送された新しいデータにより消されますので、注意して下さい。

バッテリーアラーム点滅中は、コピーの実行はできません。コピーを実行するとモデルナンバーの点滅が停止します。

XS3 DATA SHEET

MODEL No. _____

MODEL NAME _____

SERVO RESPONSE(FRM) F / N

	STEERING	THROTTLE	AUX(3ch)
REVERSE SW	NORM REV	NORM REV	NORM REV
SUB TRIM			
TRIM LEVER			GripA LN
END-POINT ADJ.	L	F	+
	R	B GripA BRK	-
EXPONENTIAL	%	F % B %	

	STEERING STM	GripB STG
DUAL RATE	%	%

	THROTTLE FWD	THROTTLE BRK
QUICK TH.(TDB)	%	%

	STEERING	THROTTLE
PROGRAM MIX TO AUX	L %	F %
	R %	B %

AUX FUNCTION	0 / LN / 2P
GripC ASSIGN(GBC)	0 / 2P / LA / Eb

※コピーして、御利用下さい。

TOTAL TIME:	
LAP TIME LIST	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	
50	

TOTAL TIME:	
LAP TIME LIST	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	
50	

11 修理アフターサービスについて

■保証書をよくお読み下さい。
保証期間内に正常な御使用において故障した場合にのみ無償で修理します。正常な御使用以外の場合（操作ミスや墜落、使用上の誤り等に起因するもの）や保証期間外の場合は有償修理となります。なお、損傷の程度によっては修理不能の場合もあります。
保証の範囲といたしましては、プロポセットのみとしそれ以外のものは対象外とさせて頂きます。
尚、原則としてアフターサービス等での製品の送料はお客様負担とさせて頂きます。

■修理を依頼されるときは修理依頼カードに下記を記入の上、状況を詳しく書き、また特にご希望されることがありましたら、特記事項欄に書き入れて直接、当社まで小包でお送り下さい。

住所欄には郵便番号、電話番号も忘れずに記入して下さい。
お名前は　フリガナをして下さい。
宛　先　〒577-0809　東大阪市永和2-2-12
日本遠隔制御株式会社　ラジコンサービス課
TEL (06)6732-0200

■修理代金の御案内は返送の際に同封させて頂きます。修理が到着後、現金書留等の方法で御送金下さい。

修理は当社技術員が責任をもって致します。
尚、修理サービスは、お客様の荷物を受け付けた後、当社内で開梱、各部門別に修理、検査し、最後に組合せテストを行い返送させていただきます。以上の様に一定の流れにて作業致しますので、できる限り修理品については不良と思われるもの以外は送らないようお願いいたします。
例、スイッチハーネス　充電器　電池　リードハーネス等
他の不良内容とは全く関係のないもの
また、修理品をお送り頂く時に、アルミケース等のトランスミッターケースを使用しますとケース本体に傷が付く事もあります。
また、各製品の内部システムの保護のためにもできる限り、購入時の発泡スチロール箱等のクッション材を御使用の上、梱包し御返送下さい。
※修理は約10日間位で完了いたしますが製品の性質上、多少長くかかる場合もありますので御了承願います。

オプショナルパーツ

品　名	価　格	品　名		価　格
受信機FM　RS300　27MHz	10,000円	高周波FETアンプ　バック付き	ESC-280B	8,800円
受信機FM　RS300　40MHz	10,000円	高周波FETアンプ　バック付き	ESC-350B	9,800円
受信機FM　R200　27MHz	10,000円	サーボ　1／12レーシング用	NEC-3125	9,000円
受信機FM　R200　40MHz	10,000円	サーボ　一般用	ES519	3,000円
FM　クリスタルセット　27MHz(01～12)	各2,500円	サーボ　一般用	ES539	4,000円
FM　クリスタルセット　40MHz(61～75)	各2,500円	デジタルサーボ　一般用	DS559	6,000円
TX　ニッカド電池　8N600S	5,000円	デジタルFETサーボ　カー用	DS8425	14,000円
RX　ニッカド電池　5N600	4,000円	デジタルFETサーボ　カー用	DS8455	14,000円
RX　ニッカド電池　5N600T(俵型)	4,000円	スイッチハーネス　S		700円
充電器　NEC-125(RX　6.0V)	3,000円	スイッチハーネス　C(充電リード付)		1,000円

品　名	受信機	サーボ又はアンプ	RX電源	その他
XS3　FM	R200	ES519×2	RX電池ケースS	ホーンセット、 アブソーバーゴム、ハトメ、 サーボ取付ビス、バンドリボン、 取扱説明書(保証書)
XS3　GPD	R200	DS559×2		

日本遠隔制御株式会社　〒577-0809 東大阪市永和2丁目2−12 TEL.06(6732)0201

（本仕様及びマニュアルの内容について、予告なく変更修正する場合があります。）